

平成26年度 日本体育学会第65回大会報告

2014 : Participated in the 65th annual Japan society of Physical Education, Health and Sport Science

千葉 洋平

Yohei CHIBA

1. はじめに

平成26年度の日本体育学会第65回大会は、岩手大学に於いて8月25日(月)～28日(木)に開催された。大会の概要・大会総括は以下のとおりである。

2. 大会の概要

【期日】平成26年8月25日(月)～28日(木)

【会場】岩手大学

アイーナ(いわて県民情報交流センター)

マリオス(盛岡地域交流センター)

【主催】一般社団法人日本体育学会
日本体育学会第65回大会組織委員会

【主管】国立大学法人 岩手大学

【担当】日本体育学会 東北地域

プロセス

千葉 洋平(助手)

芸道の学習論;学びとしての身体の教育

○中澤 雄飛(スポーツ・システム研究科 博士
後期課程3年)

伸張性収縮様式での筋力トレーニングが上腕屈筋群における筋厚変化の部位差に及ぼす影響

○藤原 悠太郎(スポーツ・システム研究科 博士
前期課程2年)・平塚 和也・田中 重陽・
角田 直也

バレーボールのブロックがスパイク得点要因に及ぼす影響

○中岡 侑輝(スポーツ・システム研究科 博士
前期課程1年)・山田 健二・須藤 明治

3. 本学の一般研究発表

成長期のスポーツ選手における環境条件の違いによる身体的特徴の比較

○須藤 明治(教授)・山田 健二

じゃれつき遊びプログラムにおける子どもの発達

4. 大会総括

今年度の日本体育学会第65回大会では、「体育・スポーツのイーハトーヴを求めて—いつまでもわをひろげ てをつなぐ—」という大会テーマのもと岩手大学をメイン会場として開催された。このテーマにある「イーハトーヴを求めて」とは、

岩手大学の卒業生である宮澤賢治が描いた理想郷をイーハトーヴと呼んだことからきている。2011.3.11に発生した大地震により、岩手県の沿岸部でも津波による甚大な被害を受け、岩手大学では復興と再生に尽力することが誓われている。そのため、本大会においても体育・スポーツが地域やひとにできることを改めて考えることが願われた大会となった。

来年度の第66回大会が、本学の世田谷校舎で開催されることが決定したことから、視察も兼ね本学の教員も多数参加をしていた。また、大学院生も熱心に発表や聴講を行っていた。

体育哲学専門領域主催のシンポジウムBでは、「オリンピック・レガシー研究の現状と課題」というテーマで、3名の演者が発表を行っていた。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を開催するにあたっては、オリンピズム（オリンピックの理念）をいかに広く普及・具現し、その後も永く人類にプラスになるレガシー（遺産）を遺していけるかが問われている。このシンポジウ

ムでは、そのレガシーに関わる研究動向について国内外の文献を紹介しながら発表が行われていた。またフロアーにも大勢の会員が押し寄せ、関心の高さが窺われたシンポジウムであった。来年度、本学で開催される体育学会においても、「2020東京オリンピック・パラリンピックと体育・スポーツ科学研究」というテーマでの開催が予定されていることから、次回の大会を開催する上で大変参考となるシンポジウムであった。

一般研究発表においては、本学からは須藤明治教授、大学院生の中澤雄飛さん、藤原悠太郎さん、中岡侑輝さん、そして筆者らが各専門領域において自らの研究について発表を行った。大学院生の中には初めて学会発表を行う者もあり、十分な準備を行っていたものの緊張した面持ちで発表に臨んでいた。しかし、日本体育学会での発表は大変貴重な経験となり、今後の研究に活かされる場になったことと考えられる。来年度は本学での開催ということもあり、本学の関係者が多数参加し、活躍することが期待される。

